

1. 三重県 2. 静岡県 3. 千葉県 4. 鹿児島県

1. 関東ローム 2. シラス 3. マサ土 4. 泥炭

1. 二毛作 2. 抑制栽培 3. 促成栽培 4. 露地栽培

1. 商業や金融業の中心的機能が集積しているため、卸売業や小売業の就業者が第二次産業の就業者をわずかに上回っている。

2. 広大な土地を活用した米作りや畜産業が盛んであり、第一次産業の就業者が全国平均より大幅に多い。

3. 大規模な工業地域が形成されており、自動車産業などの製造業を中心とした第二次産業の割合が高い。

4. 豊かな自然環境や歴史的背景を活かした観光業が盛んであり、第三次産業の割合が極めて高い。

1. 大分県九重町 2. 熊本県阿蘇市 3. 長崎県雲仙市 4. 鹿児島県霧島市

1. サンゴ礁が発達した浅瀬の海岸線を活かし、年中温暖な気候を利用した海洋レジャーが発展したため。

2. 火山活動によるマグマの熱が地下水を温め、豊富な温泉資源として観光や文化に活用されているため。

3. カルデラ地形の内側に広がる平坦な土地を利用して、避暑地としてのホテル建設が進められたため。

4. 火山灰が降り積もった水はけの良い土地を活かし、大規模な果樹園を中心とした観光農業が行われているため。

1. 親潮 2. 黒潮 3. リマン海流 4. 対馬海流

1. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるため、収穫時期を大幅に早める必要があるため。
2. 化学肥料や大規模な農業機械を導入することで、土壌の養分を短期間で回復させるため。
3. 冬でも雪が少なく温暖な気候を活かし、土地を休ませることなく効率的に活用するため。
4. 海外からの輸入農産物に対抗するため、米の生産を休止して小麦の専門農家へ転換するため。

1. シラス台地 2. リアス海岸 3. 扇状地 4. カルデラ

1. 農薬や肥料の使用量を大幅に減らし、生産コストを削減することを目的とするため	2. 夏の台風による被害を最小限に抑えるため、春のうちに収穫を全て終えるため	3. 他の産地からの出荷が少ない時期に販売することで、高い価格で取引するため	4. 都市部までの輸送距離が長いいため、移動中に野菜が成熟するように調整するため
--	--	--	--

1. 大規模な機械化によって生産コストを輸入牛肉よりも低く抑え、価格の安さで勝負する。	2. 牛肉の生産を段階的に縮小し、すべての農地を輸入の影響を受けにくいサトウキビ栽培に転換する。	3. 「宮崎牛」などの名称でブランド化を推進し、品質の高さや安全性で輸入品との差別化を図る。	4. 海外の安い飼料を使わず、国内産の高級な牧草のみを使用することで、販売価格を輸入品の10倍以上に設定する。
---	--	--	---

1. 公共交通機関の利便性については高く評価されているが、外国語での案内表示が全くないことが不満に繋がっている。	2. 宿泊施設での対応には満足している一方で、観光地でのWiFi環境が完全に整備されているため不満は存在しない。	3. 現地の食事や土産品に対する満足度が著しく低く、観光資源の質の向上が求められている。	4. 言葉によるコミュニケーションへの評価が低く、インターネット接続環境への不満が目立つ。
--	--	--	---

1. 広大な平野を利用した機械化農業が推進され、農産物の加工から販売までを行う第六次産業が製造業に代わっているため。

2. 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。

3. 県外からの輸送コストが高いため、原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易型の工業が全く発達しなかったため。

4. 政令指定都市を中心とした都市圏が形成され、情報通信技術（ICT）関連の製造工場がすべて県外に移転したため。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 鹿児島県	茶の生産において、かつては静岡県が生産量・生産額ともに圧倒的な首位でしたが、近年は大規模な機械化が進んだ地域が台頭しています。特に、シラス台地などの平坦な土地を利用して効率的な生産を行い、早期収穫が可能な品種（新茶）をいち早く出荷することで、生産額において全国トップクラスに成長したのがこの県の特徴です。
問2	答え 2 シラス	鹿児島県などの南九州に広く分布するこの地層は、過去の巨大カルデラ噴火による火砕流などの噴出物が堆積してできました。多孔質で水はけが極めて良いため、稲作には不向きですが、サツマイモや茶などの畑作が盛んに行われています。関東地方に見られる火山灰層である関東ロームと混同しないよう注意が必要です。
問3	答え 3 促成栽培	宮崎県や高知県などの黒潮の影響を受ける温暖な地域では、冬でも暖かい気候を活かし、ビニールハウスなどの施設を用いて成長を早める栽培が行われています。これにより、他の地域での生産が少ない冬から春にかけて農作物を出荷でき、市場で高い価格で販売することが可能になります。
問4	答え 4 豊かな自然環境や歴史的背景を活かした観光業が盛んであり、第三次産業の割合が極めて高い。	このデータが示す県は沖縄県です。沖縄県は美しい海やサンゴ礁、首里城跡などの歴史的遺産、特有の文化を背景に観光業が非常に発達しています。そのため、商業やサービス業を含む第三次産業の割合が80%を超えており、全国でもトップクラスの高さです。一方で、大規模な工業地帯が少ないことから、製造業などの第二次産業の割合は全国で最も低い部類に入ります。
問5	答え 1 大分県九重町	大分県九重町にある八丁原（はっちょうばる）発電所は、火山活動が活発な九州地方の特性を活かした日本最大級の地熱発電所です。大分県は温泉の湧出量も日本一であり、豊富な熱エネルギーを電力供給に活用している地域的な特色があります。
問6	答え 2 火山活動によるマグマの熱が地下水を温め、豊富な温泉資源として観光や文化に活用されているため。	大分県は九州地方の火山帯に位置しており、地下のマグマの熱によって地下水が温められ、日本一の湧出量を誇る温泉地が形成されました。この火山活動という自然環境が、別府温泉などの観光産業や、地獄蒸しといった独自の生活文化の基盤となっています。他の選択肢にあるサンゴ礁（沖縄など）やカルデラでの放牧（阿蘇など）は、大分県の温泉資源の説明としては適切ではありません。
問7	答え 2 黒潮	低緯度の暖かい海域から日本列島の太平洋側に沿って北上する暖流は、黒潮と呼ばれます。その色は深く澄んだ青色をしているため、黒っぽく見えることからこの名がつけました。一方、親潮やリマン海流は北から流れてくる寒流であり、対馬海流は九州の西側を通って日本海側へと流れる暖流です。
問8	答え 3 冬でも雪が少なく温暖な気候を活かし、土地を休ませることなく効率的に活用するため。	二毛作が行われる大きな理由は、限られた耕地からより多くの収益を得るための土地の高度利用にあります。九州北部の筑紫平野は、冬でも比較的温暖で積雪が少ないため、水稻の収穫後に麦を育てる「裏作」が可能となります。クリーク（人工の水路）が発達し、水管理の技術が向上したことも、このような集約的な農業を支える要因となっています。
問9	答え 4 カルデラ	阿蘇山に代表されるこの地形は、大規模な噴火によって地下のマグマが噴出したあと、空洞になった場所が重みで崩れ落ちる（陥没する）ことで形成されます。ポルトガル語で「鍋」を意味する言葉が語源となっており、日本だけでなく世界各地の火山地帯で見られる地形です。
問10	答え 3 他の産地からの出荷が少ない時期に販売することで、高い価格で取引するため	促成栽培の最大の目的は、他の産地が収穫できない冬から春にかけての時期に市場へ供給することです。供給量が少ない時期に新鮮な野菜を出荷することで、通常よりも高い価格で販売することが可能になり、遠隔地である消費地（東京や大阪など）への輸送費を考慮しても十分な利益を確保できるようになります。
問11	答え 3 「宮崎牛」などの名称でブランド化を推進し、品質の高さや安全性で輸入品との差別化を図る。	貿易の自由化によって海外から安価な牛肉が大量に流入するようになり、国内の畜産業は厳しい競争にさらされています。宮崎県ではこれに対抗するため、厳しい品質基準を満たした牛肉に地域名を冠した「ブランド化」を行い、高級感や信頼性を高める戦略をとっています。このように、価格ではなく付加価値の高さで選ばれる仕組み作りが、日本の農業振興策として重要視されています。
問12	答え 4 言葉によるコミュニケーションへの評価が低く、インターネット接続環境への不満が目立つ。	外国人観光客が沖縄観光において直面している課題は、主にソフト面（外国語対応）と通信インフラ面（WiFi）に集中しています。統計データにおいて「外国語対応能力」の満足度が最低水準であり、かつ「WiFi」への不満が最高水準であるという事実は、観光客が滞在中に情報の取得や発信にストレスを感じている状況を反映しています。食事や土産品といった要素よりも、これらの受け入れ態勢の整備が急務となっています。
問13	答え 2 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。	沖縄県は、その温暖な気候や青い海、琉球王国時代からの独自の伝統文化といった観光資源を最大限に活用しています。ホテル業、飲食業、交通機関などの観光に関連するサービス業（第三次産業）が雇用の受け皿となっているため、就業者割合が極めて高くなっています。これに対し、本州のような大規模な重化学工業の集積が少ないため、相対的に第二次産業の割合が低くなっています。